

○本時に育成したい資質・能力

- ・自分の感覚や行為を通して、「鳥獣人物戯画」の形や色などの造形的な特徴を理解する。  
[知識及び技能]
- ・形などの造形的な特徴を基に、自分のイメージをもちながら、昔からなじみのある「鳥獣人物戯画」の表現の意図や特徴、表し方の変化などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を深める。  
[思考力、判断力、表現力等]
- ・つくりだす喜びを味わい主体的に「チャレンジ鳥獣人物戯画」を表現する学習活動に取り組む。  
[学びに向かう力、人間性等]

○本時のめあて

友だちとの意見交流やブックトークを通じて見つけた面白さや特徴を生かして、絵巻物に表すことで鳥獣人物戯画のもつ特徴やよさに迫ることができる。

○二つの側面、三つのプロセスとの関係

- 二つの側面  
A…主に文章や図、グラフから読み解き理解する力  
B…主に他者とのやりとりから読み解き理解する力
- 三つのプロセス  
①…発見・蓄積 ②…分析・整理 ③…再構築
- A①「鳥獣人物戯画」が描かれた絵巻物の場面から表現の面白さや特徴を見付け、その理由を考えることができる。  
A②「鳥獣人物戯画」の表現の面白さや特徴を友だちと比較し、気付いたこと、考えたことを自分の言葉や絵で表すことができる。  
B②「鳥獣人物戯画」について交流することを通して、友だちの考えた表現の面白さや特徴を理解することができる。  
A③実際に鑑賞する中で気付いたことや友だちとのやりとりを通して得たことを生かして、「チャレンジ鳥獣人物戯画」をつくり、日本古来の美術作品のよさを味わうことができる。  
B③鑑賞活動や友だちとのやりとりを通して、「鳥獣人物戯画」の表現の面白さや特徴について自分の考えを、より確かなものにした、広げたり深めたりすることができる。

○本時の展開（めあて、学習課題、学習活動、児童生徒の反応予測・思考の流れ、板書計画等）

